

めぐみイエス・キリスト教会

2018年12月16日(日)第三アドベント礼拝
週報「通算第436号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年12月16日(第三アドベント礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

第二礼拝 午後6時～7時

司会(奏楽) 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌75 「神の御子は」 p. 102

【交読文】 No.24 詩篇第67篇 p. 898

【賛美Ⅱ】 新聖歌82 「牧人羊を」 p. 112

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.1 「ビジョン」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書17章2節～3節(新約p. 197上段)

【祈 禱】

【説 教】 《永遠の命を与える為》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌77 「きよしこの夜」 p105

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※本日の聖書箇所【ヨハネの福音書17章2節～3節】

17:2 「それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。

17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

●ポイント1 「あなたからいただいたすべての者に」とは？

※コロサイ人への手紙1章15節～17節「御子によって」 (新約p.357下段)

御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。

●ポイント2 「永遠のいのちを与える為」とは？

※ヨハネの福音書6章39節～40節「私の父のみ心は」 (新約p.170上段)

6:39 「私を遣わした方のみ心は、私に与えてくださったすべての者を、私がひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。

6:40 事実、私の父のみ心は、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。私はその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

※ヨハネの福音書6章47節～58節「私はいのちのパン」 (新約p.170下段)

●ポイント3 「その永遠のいのち」とは？

※第 I ヨハネ5章10節～13節「神の御子を持つ者」 (新約p.431下段)

5:10 神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。

5:11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

※ヨハネの黙示録3章20節「彼と共に食事をする」 (新約p.441下段)

見よ。私は、戸の外に立ってたたく。誰でも、私の声を聞いて戸をあけるなら、私は、彼の所にはいって、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

◎先週のメッセージの概要【時が来ました】

《イエス様と十一人の使徒たちは、まだヨハネ・マルコの家において、過越の食事、すなわち最後の晩餐の時をもっていました。イエス様は、愛する者たちに、出来る限り、時間の許す限り、大切な真理を伝え終えたのです。

今日からヨハネの福音書も17章に入りますが、ここからイエス様の天の父への祈りとなり、イエス様の右側にいたヨハネは、その祈りの言葉を余すこと無く書き留めています。このことに、本当に聖霊様の導きと、神様の深い摂理に驚きます。なぜなら、ヨハネが福音書を書き記すのは、この時から、少なくとも六十年から七十年以上も後のことだからです。

「父よ。時が来ました。」と最初にイエス様は言われました。

今日は、ここから主イエス様が言われた「時」について考えて見ましょう。

ゲッセネマにおいて、イエス様は異邦人の手に渡されますが、その時イスカリオテのユダの裏切りが決定的になる時を迎えることになるのです。この時まで、イエス様はユダの為に取りなし、悔い改めを祈り続けていたのです。

「見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。見なさい。私を裏切る者が近づきました。友よ。何の為に来たのですか。」

また、押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちにも言われました。

「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。あなたがたは、私が毎日宮で一緒にいる間は、私に手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

この時まで、悪魔はイエス様に手をかけることが許されませんでした。しかしこの時には、父なる神様の守りが、一時的に解除されたことが分かります。

さてイエス様は続けて、「あなたの子があなたの栄光を現わす為に、子の栄光を現わして下さい。」と言われましたが、これは復活を意味しています。

しかし復活する為には、「十字架の死」を通らなければならないのです。イエス様が、真の栄光を受ける時は、まさしく「復活」された時なのです。この「復活」があるからこそ、私たちクリスチャンには、真の希望があるのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、12月23日(日)クリスマス礼拝(通常と同じ礼拝)です。

また12月24日(月)クリスマス・ミニ・コンサート集会を午後1時から行ないます。

次回の祈禱会は、12月19日(水)午後6時15分からです。26日も有ります。